

平成 28 年度 東京都内湾水生生物調査 6 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 28 年 6 月 22 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温 23.4～24.2℃、調査地点の風は弱く、海は静穏であった。調査当日は大潮で、干潮が 12 時 10 分、満潮は 18 時 57 分であった。

5 月 9 日に実施した稚魚調査では、スズキ、マハゼの稚魚が多く採取されたが、今回の調査では、いずれの地点においてもこれらの個体数は少なくなっていた。採取された個体の全長は 5 月に比べ大きくなっていたことから、多くが成長と共に深所に移動したものと考えられる。

2016/6/22	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚(東渚)
作業時刻	11:10-12:24	9:45-10:44	13:07-14:49
水温(℃)	24.2	23.1	24.7
塩分	15.0	23.5	13.7
透視度	55.0	41.0	57.0
DO(mg/L)	8.0	8.4	5.5
DO飽和度(%)	103.5	113.0	71.3
波浪(m)	0.1	0.0	0.1
pH	7.3	8.1	7.8
水の臭気	弱下水臭	無臭	無臭
備考	干潟では、2名が潮干狩りをして いた(ホンビノスガイが獲れ ていた)。 下げ潮から最干時に調査を行 った。	潮干狩りをしている人は見当 たらず、観光客もまばらであ った。 下げ潮時に調査を行った。	汀線付近では、カワウやカモメ 類の群れが休息していた。 上げ潮時に調査を行った。

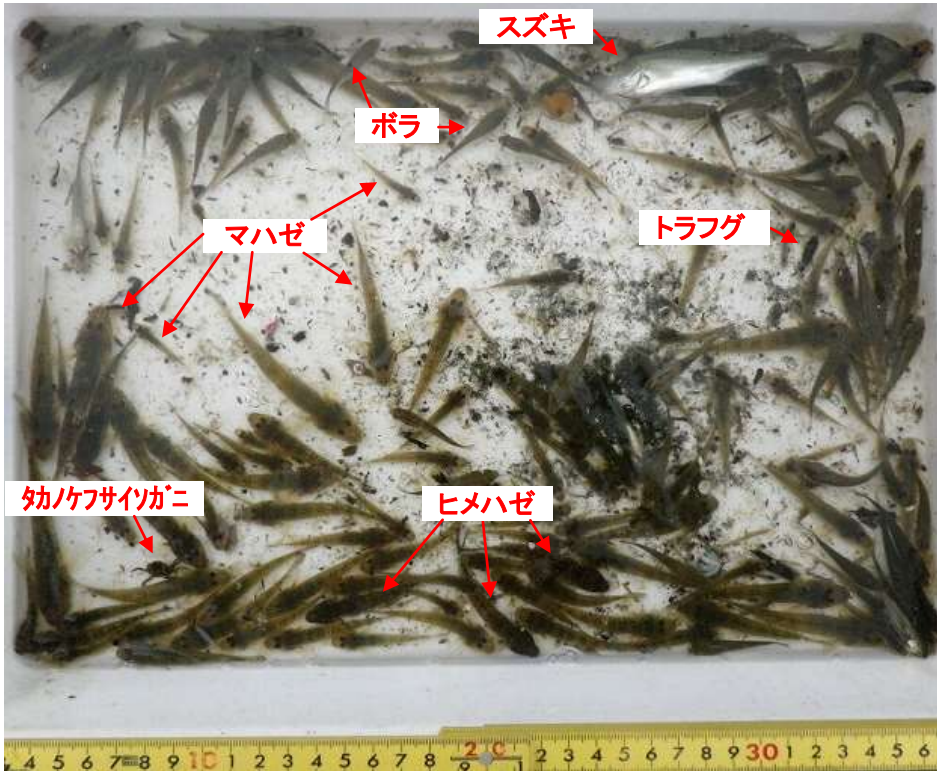
●主な出現種等 (速報のため、種名などは未確定)

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	マハゼ(c)	マハゼ(+)	ボラ(m)
	ボラ(+)	ビリンゴ(+)	エドハゼ(m)
	スズキ(r)	クロダイ(r)	マハゼ(c)
	ヒメハゼ(r)	ヒメハゼ(r)	ビリンゴ(c)
	トラフグ(r)	トラフグ(r)	コノシロ(r)
魚類以外	エビジャコ属(+) タカノケフサイソガニ(r)	アサリ(r) エビジャコ属(r)	ニホンイサザアミ(m) エビジャコ属(r)
備考	他にチチブ属(シマハゼ類)、 アサリ等が採取された。	他にコノシロ、ウグイ属等が採 取された。	汀線付近でアカエイが 1 個体 確認された(目視のみ)。

注)表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5～20 個体未満、r:5 個体未満

城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある小規模な干潟で、北側には東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等



東京湾を代表する魚のひとつ。幼稚魚は、干潟域等の浅所でみられる。6月には、城南大橋でのみ採取された。他の地点も含め、成長に伴い深所に移動したと考えられる。



東京湾を代表する魚のひとつ。内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は、初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。城南大橋では、大きさの異なる個体(稚魚～若魚)が採取された。



内湾の泥底から砂泥底の石やカキ殻の下や間などでみられる。東京湾には、シモフリシマハゼとアカオビシマハゼが生息し、外見は非常によく似ている。



内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。魚類の稚魚などを捕食することが知られている。



潮干狩りなどで盛んに獲られている代表的な二枚貝。東京湾のものは形が細くて、模様のコントラストが強いものが多い。



河口域や内湾の潮間帯の転石下等に生息し、東京湾では最も普通にみられるカニ類である。甲幅は3cm程度になる。写真の個体はハサミ脚が両方脱落(自切)している。

お台場海浜公園 採取試料



レインボーブリッジの袂にある人工の渚。台場公園や鳥の島で囲まれており、静穏な場所である。

●主な出現種等



マルタの幼魚と推定される。河口付近の干潟域では、4月下旬から5月上旬にかけて体長1~2cm程の稚魚が大量に出現する。干潟域には梅雨時から秋までの期間、体長5~15cm程になるまで滞在する。



全長は9cm程度になる。内湾や河口域の干潟域の砂底や砂泥底に生息する。小型甲殻類や二枚貝を食べている。危険を察知すると砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色に似ている。



全長75cm程になる大型のフグで、超高級食材として知られる。本調査で確認されたのは、H26年に続き2回目と珍しい種類。産卵期は春で、ふ化した仔魚は、河口、干潟域に接岸し、底生生物を食べて成長する。

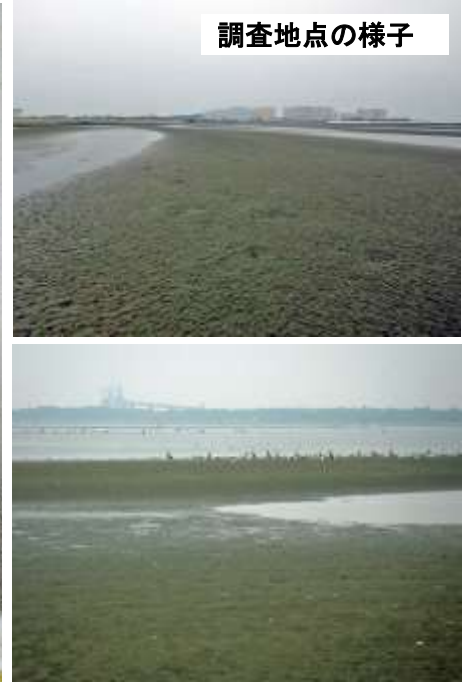
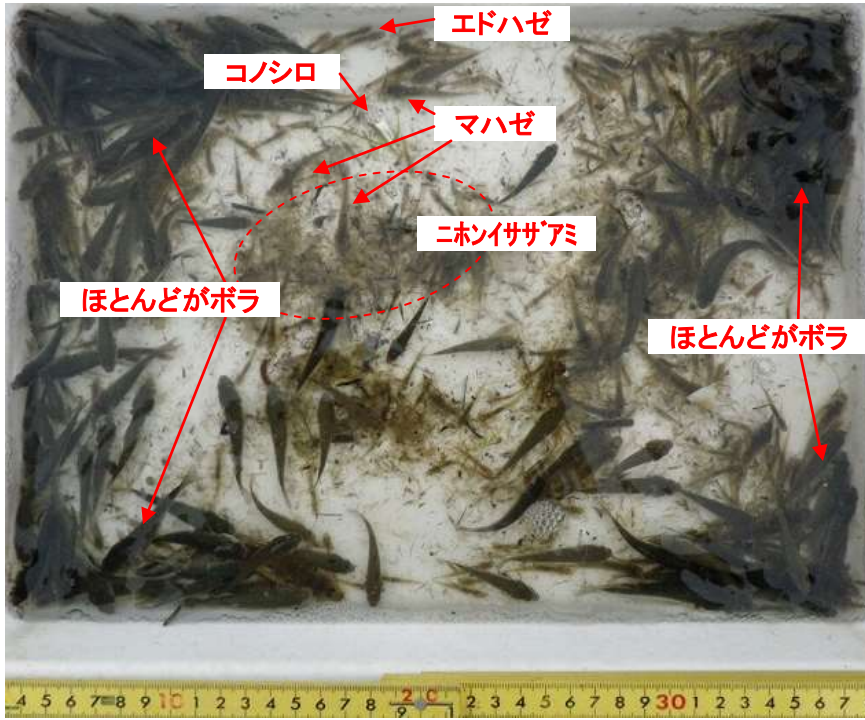


稚魚は、5~7月に干潟域、アマモ場、砂浜海岸、漁港などの沿岸浅所に出現する。全長は50cm程度になる。釣りの対象として親しまれている。クロダイによく似た種類であるキチヌの稚魚は、10~11月に出現する。



サクラエビの仲間である。体長は4cm程度で触角が赤い。東京湾ではあまり利用されないが、新潟県では「あかひげ」とよばれ、かき揚げや佃煮などで賞味されている。

葛西人工渚（東渚） 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。東渚は、一般の立ち入りは禁止されており、野鳥の楽園となっている。

●主な出現種等



コノシロ

東京湾を代表する魚のひとつで、内湾や河口域に生息する。産卵期は春から初夏で、ふ化した仔魚は内湾の干潟域などの浅所でもみられる。江戸前寿司のコハダは、10cm程度に成長した本種のこと。



ボラ

5月

内湾の干潟域では最も個体数の多い遊泳魚である。体長2cmほどの稚魚になると群れで来遊する。稚魚の体色は金属光沢が強いが、成長にともない、金属光沢は鈍り、体は厚みを増す。



ピリンゴ

河口付近の干潟域で仔稚魚が3～5月に大量発生する。稚魚は成長するにつれて河川の上流側に移動する。早春にアナジャコ等の甲殻類の巣穴に産卵する。



エドハゼ

湾奥の干潟域に生息し、アナジャコの巣穴がある砂泥地を好む傾向がある。アナジャコの巣穴を隠れ家として利用している。小型甲殻類を食べる。



チチブ属(チチブ類)

チチブまたはヌマチチブの稚魚である。チチブ属魚類の浮遊仔魚は、6～9月に干潟域などで大量に出現する。成魚では、チチブは河口域、ヌマチチブは中流から下流域で多くみられる。



ニホンイサザアミ

汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間でない)である。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要であるほか、佃煮やアミ漬としても利用されている。